

35 ハスダイ・イブン・シャプルート  
とカイロ・ゲニザ

泉 彪之助

一八九七年にエジプトのカイロ・フスタートのシナゴ  
ーグから発見された、ユダヤ人コミュニティ由来の古  
文書がカイロ・ゲニザである。演者は、エルサレム在住  
の知人バルマツ氏から一九九七年にイスラエル博物館  
で開催された「カイロ・ゲニザ発見百年記念展」のパン  
フレットの恵受を受け、それに掲載されたマイモニデス  
自筆の書簡の写真を昨年の学会で供覧した。

この記念展の展示目録を見ていたところ、その中にユ  
ダヤ人政治家・医学者アブ・ユースフ・ハスダイ（または  
ヒスダイ）・イブン・シャプルート（九一五―九七〇）（以下  
ハスダイ）筆および彼宛の書簡（いずれも写し）がいくつ  
かあることに気付いた。これらの書簡は主として彼の政  
治家としての活動に関するものだが、ディオスコリデス

のアラビア語への翻訳にも関連しており、コルドバにお  
ける学芸の振興に功績のあったハスダイについて報告し  
たい。

ハスダイはスペイン・アンダルシア地方のハエンで生  
まれ、コルドバで医業に従事、後ウマイヤ朝のカリフ、  
アブドゥル・ラフマン三世に政治家・侍医として仕えた。  
アブドゥル・ラフマン三世の支配下で、その首都コルド  
バが繁栄し、アラブ文化が栄えたことは広く知られてい  
るが、その力となった一人がハスダイである。

カイロ・ゲニザの中に発見されたハスダイ関連書簡で  
有名なのは、かつてカスピ海沿岸からクリミア半島にか  
けて存在した国でユダヤ教を国教とした、ハザール王国  
に関する情報を求めたハスダイの書簡とそれに対する返  
書で、ハザール王国についての貴重な史料と評価されて  
いる。

カイロ・ゲニザの中に、ハスダイがビザンチン皇后へ  
レナに送った書状の写しがある。この情報の収集・交換  
をめぐるビザンチン宮廷との通信が、ディオスコリデス  
をアラビア語に訳するきっかけとなった。

ビザンチン皇帝に対してディオスコリデスの著書を求めたアブドゥル・ラフマン三世に、九四〇年、皇帝はギリシャ語のテキストを贈った。僧侶ニコラスによりギリシャ語文獻はラテン語に訳され、ハスグイはアブドゥル・ラフマン三世の宮廷でただ一人ラテン語を解したため、カリフの命によりラテン語訳からアラビア語へ翻訳した。このニコラスが、ビザンチンの宮廷から文獻と一緒にコルドバへ来たとするものと、もともとコルドバの人間でハスグイと共同して翻訳にあたつたのだとしているものもある。

多くのアラブ医学者や翻訳家はアラブ医学書のラテン語訳によって知られたが、ハスグイ・イブン・シャブルートは逆にラテン語訳されたものをアラビア語に訳したので日本ではそれほど知られていない。しかしその業績はビザンチン帝国に保存されていたギリシャ医学の古典をアラブ医学に導入したもので、しかもその過程が知られている点で、アラブ医学史における意義は大きい。

カイロ・ゲニザは聖書学者やユダヤ人史に関心を持つものだけに注目されてきたが、マイモニデス自筆の文書

や医薬関連の文書も含まれ、医史学から見ても重要である。

スペインと南ロシアの間で地誌的社会的情報が交換されたこと、ギリシャ医学の古典がコンスタンチノーブルの宮廷からコルドバの宮廷へ贈呈されたこと、コルドバで得られた情報がカイロにも知られていたことなど、一〇世紀当時の活発な文化交流にも注目すべきであろう。

(老人保健施設 陽翠の里)